

4 - 12 伊豆半島におけるラドン観測 (XIX) Radon Observation in the Izu Peninsula (XIX)

東京大学大学院理学系研究科
Graduate School of Science, The University of Tokyo

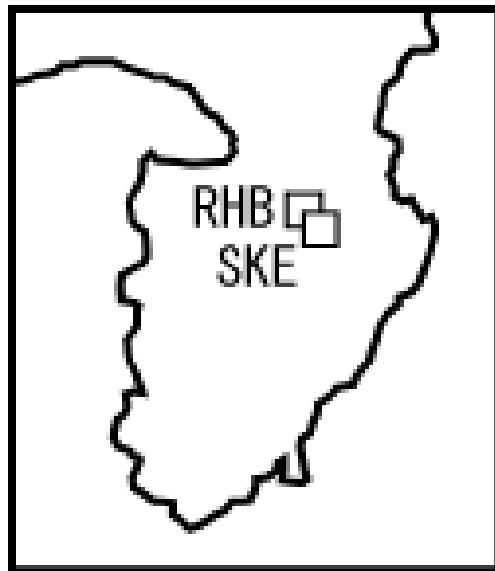
前報¹⁾ に引き続き、伊豆半島における地下水のラドン濃度の連続観測結果 (2001年6月~2002年4月) を報告する。

観測点は、第1図に示す中伊豆第1 (SKE)、中伊豆第2 (RHB) の2地点である。第2図は、各観測点における、1時間毎のラドン濃度 (積算値) の24点移動平均値の時系列である。図の右上には、1998年以降のラドン濃度の観測値を示してある。

SKE のラドン濃度は観測期間中ほぼ一定である。RHB では、例年夏季に比べて冬季のラドン濃度は低く、変動も大きい。

参 考 文 献

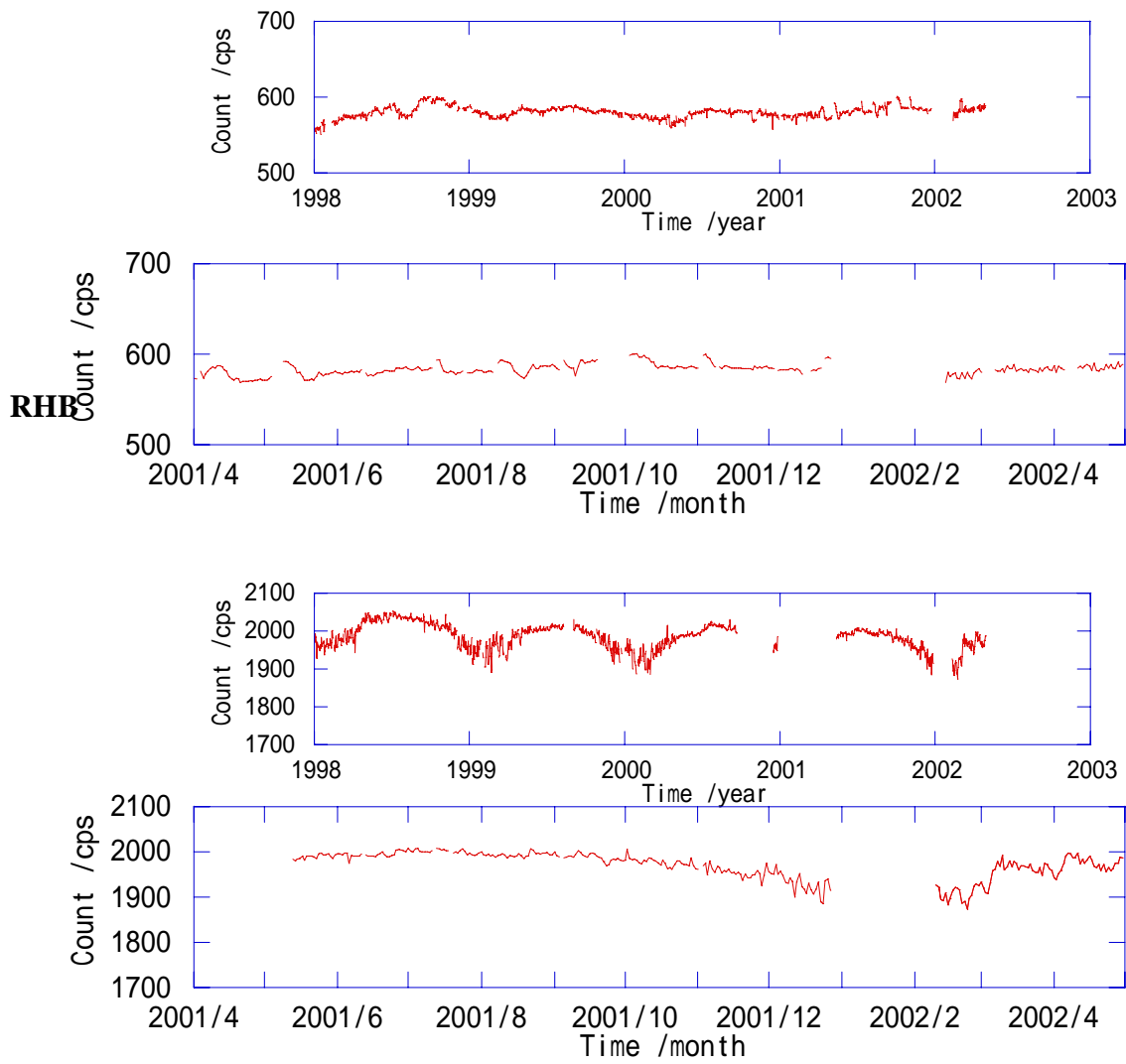
- 1) 東京大学大学院理学系研究科：伊豆半島におけるラドン観測 (XVIII), 連絡会報, 66 (2000).



第1図 伊豆半島の地球化学観測点の位置

Fig.1 Locations of geochemical observation sites in the eastern part of Izu Peninsula.

SKE



第 2 図 SKE、RHB における地下水のラドン濃度変化

Fig.2 Temporal variations in the radon concentration in ground water at SKE, RHB. The data are 24-hour moving average value.